

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1194600134		
法人名	有限会社ライフ・ワン		
事業所名	グループホーム スワン		
所在地	埼玉県深谷市東方2873-5		
自己評価作成日	平成26年 3月 15日	評価結果市町村受理日	平成26年 4月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;Jigvovocd=1194600134-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;Jigvovocd=1194600134-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成26年 3月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

『ゆっくり 一緒に 楽しく』の理念のもと、利用者のペースに合わせたケアが行なえる様な支援をこころがける。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設3年目となる事業所は、田園の広がる自然環境に恵まれた静かな場所の中にある。「ゆっくり・一緒に、楽しく」という理念は常に意識され実践されている。利用者一人ひとりのペースに合わせたケアが行われ、職員が利用者を急かすこともない。毎月、居室担当の職員は、「スワン便り」に利用者の日常生活の様子や体調などを記入し、写真を添えて家族に報告している。職員一人ひとりが利用者本人の自主性を大切に接して、ケアをしていることがご家族にも理解されている。買ったものを揃えるだけでなく、職員が工夫をしたり、手作りをしたりしている、まさに「アウトホームで温もりを感じる事業所」である。事業所内ではネギやほうれん草などを栽培し、収穫できたものを一緒に食している。今までの生活と大きく変わることがない、自宅で生活している様に日々を過ごされている様子が印象的である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口に理念を掲げ、職員が意識するよう努めています。	理念は「ゆっくり・一緒に・楽しく」。この理念は、手書きで、玄関そしてすべての利用者の居室につながる広々とした中廊下の壁に掲げられている。職員は、せかさないように利用者のペースに合わせた支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の大神社で踊りの催し物があったりすると、見に行ったり地域の集まりに参加したりしております。	地域の一員として自治会に参加している。昨年は班長を務め、広報誌の配布、地域パトロール等を行った。大神社での踊りを見に行ったり、散歩で事業所前の公園に行くと近所の方と出会い、野菜をいただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などの地域の方との集まりの中で、会話として施設の話など聞いて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数は少ないですが、運営推進会議をおこなっております。	運営推進会議は、地域包括、民生委員、自治会長等が参加し実施した。会議では現在の状況と活動を報告するとともに、今後の行事予定を報告している。今後、回数を増やし、サービス向上に活かしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者が多数入居されており、市役所の職員とは連携をとらせて頂いております。	市役所の担当職員とは、生活保護を受給されている利用者を中心に連絡を密にとっている。敬老の日には、担当職員が事業所を訪問し、利用者の日々の様子を尋ねる等、これからも協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行わないよう職員全員こころがけをしております。	身体拘束に関する情報は、会議等の場でケアマネを中心にして職員に伝えることが多い。出席できなかった職員には資料の配布や回覧で周知を徹底している。体の拘束だけでなく、言葉による拘束など虐待的な行為があってはならないことも職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、もっとも行ってはならず、虐待防止の勉強会を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なるべく学ぶ機会を持てるようにしたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、きちんと理解して頂けるよう説明をおこない、また事前に質問を聞いたり、入居後も質問があれば、その都度対応させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様にとって、より過ごしやすい環境を作るべく、職員のほうから色々ご家族様にはご協力頂いております。	家族からは訪問時に要望等を伺う。訪問が難しい家族には、定期的に行事の写真等を送り、日々の様子を報告している。利用者の希望で、近くにアイスクリームを食べに行ったり、誕生日会にお寿司を食べたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの場で、気になるところや変えていきたい事を話し合い、改善に向けています。	管理者は、申し送りの際に利用者の変化など極め細かな報告を受けている。職員はこの申し送りの時に気になるところや変えたいところ等意見や提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、社員だけでなくパート職員にもボーナス支給や、その他手当を支給しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これからもっと、ケア向上にむけた勉強をおこなっていただけるように努力します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に約20名の看護師の実習生を受け入れ、介護を体験して頂きながら、交流を作らせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様がどうしても、孤独な気持ちになってしまわれたり、帰宅願望になってしまったときは、電話でご家族様の声を聴かせてもらうなどの対応をします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを立てる際は、毎回ご家族様と話し合いをおこなって、作成します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「スワン便り」や、写真をご家族様に毎月届け、利用者様の日常をお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とは、毎日モップを一緒にかけたり、洗濯物を一緒にやったり、生活に必要なことを共にこなしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ、ご家族様に会いに来て頂けるように、常々連絡を取らせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ときどきドライブで、ご利用者様の要望にて、住んでいた場所まで行きぐるっとドライブして帰ってきます。	馴染みの場所には、家族が訪問した際に一緒に外出することが多い。古くからの友人が事業所に訪問してくれる方もいる。家族の協力もお願いしながら、これまでの関係ができるだけ途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビが好きな方は、テレビのほうへ席を向けたり、話が好きな方は席をとなりにししたり、一人が好きな方は一人の席に座るなど、それぞれに合った対応を致してます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退室後も、面会に行くなどさせて頂くこともありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか意志の疎通がうまくいかなくても、人を変えたり時には利用者様同士で意志確認をおこなうこともあります。	本人だけでなく家族からも今までの暮らし方を伺い、利用者の思いや意向を把握したケアができるよう努めている。症状によっては意思疎通が難しい時があり、時間をずらすなど工夫をし、本人に合わせたケアをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や、仕事、趣味だったことなどご家族様から詳しくお聞きし、ご本人との対応に役立てております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのレベルを理解し、全員おなじケアではなく、できる方には日記など字の練習や、歩行、体操などでADLの維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの利用者様に居室担当者がおおり、より細かく利用者様の日常を把握して、ケアプランのアイデアを出しています。	ケアプランには、居室担当者が申し送りで記入している利用者の日常の様子や、これに対する意見が反映されている。ケアプランの見直しの際には、家族に現在の状況をできるだけ直接説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記入し、変化に対応していくため、職員は必ずノートに目を通し、連絡漏れのないようにこころがけてます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のご協力のもと、より良い支援を目指していっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や、お寺が散歩に適した距離にあり、季節を感じる事ができます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族様へ、通院対応をお願いしていますが、いけない場合は施設にて対応しております。	かかりつけ医の受診は、本人や家族の希望を大切にすると共に、今までの関係を継続することから家族に協力をお願いしている。また、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう籠原病院とも連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に、利用者様に何かあった場合はすぐに連絡し、支持を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、着替えや身の回りの必需品を、ご家族様と協力しながら病院へ届け、ご本人にも安心できるよう面会しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「スワン便り」にて毎月の状況をお知らせし、利用者様の変化を職員と共に知って頂きながら必要な支援策をご一緒に考えたり、アドバイスします。	家族には毎月の状況を「スワン便り」で報告し、早い段階から利用者の状況の変化を共有し、適切な支援をする。重度化など利用者が常時医療を必要とする場合には、事前に医療機関に相談し、本人と家族と事業所に対応できることを話し合う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を、事務所の見やすい場所へ掲げ、周知徹底をおこなってます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練(日中および、夜間の想定)をおこない、災害時に備えています。また施設内にスプリンクラーを完備しています。	昨年は火事を想定して、水消火器を使った訓練を2回実施した。また、事業所にはスプリンクラーを設置し、万が一の火災に備えている。地震の場合には、揺れが治まるまで建物内にいるように消防署の指導を受けている。	火災や地震などの災害時、利用者が事業所の外に避難したときを想定し、今まで以上に近隣地域との協力体制を構築することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は、私たちの人生の先輩であることを常に忘れず、接しております。	利用者は様々な経験をされてきた人生の先輩であり、職員はそのことを常に意識して対応するように心がけている。また、利用者には不快な思いをさせないような支援を実践するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か要望は無いかな、職員から気かけたり、利用者様の言いやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペースを重視しながら、それに合わせた支援をこころがけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装など、変わったところがあったら一緒に髪を整えたり着替えを行います。毎週水曜日に、爪切りや耳濠を全員おこないます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ、希望のメニュー利用者様に聞き、できる方は毎回お膳を下げてくださいます。	食事は事業所内で職員が作っているので、利用者に皮をむいたり、食材を切ったりすることを手伝ってもらうこともある。利用者の希望を聞いて、パンや焼きそばなどメニューに取り入れ、好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体に合わせた量の食事、利用者様によっては、刻み食であったりします。脱水や、便秘防止の為に水分はきちんと摂ってもらうようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お手洗いの時間を把握し、なるべく失敗のないよう、時間が来たら声かけをおこなってます。介助にてお手洗いが出来る方は、麻痺があってもオムツではなく、リハビリパンツにて対応してます。	利用者個人ごとに排泄の記録表が作成されており、時間など排泄のパターンを把握することに努めている。また、対応した職員が気づいたことも記入され、排泄時の対応方法なども職員同士で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をチェックし、3日以上排便が無い場合は、便が出る様処置をとってます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、職員の一番多い時間帯にて行い、危険のないようにしてます。	ゆっくりと入浴したい方に合わせ入浴の支援をしたことがある。洗髪は利用者の希望を聞き行い、希望しなかった場合には記録をし、次の対応に繋げている。とくに入浴時に事故等の危険がないよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が落ちていて、休息が必要な利用者様には、傾眠など見られたら、すぐにベッドで横になって頂きます。他にも13時から15時までは昼休みで、居室にて休んで頂いてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートの薬の変更があったら、飲み方、薬名などをその都度、速やかに記入し、全員が周知するようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人に意思確認をおこないながら、無理にはせず、楽しんでいただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ出掛けたり、ご家族様にもなるべく外へお連れしてもらえよう努めてます。	利用者の希望を聞いて、普段行けないようなレストランなどの外食に行っている。職員と一緒に車で近くのスーパーに出かけ、化粧品等を購入したこともある。ご家族が訪問した際には、なるべく一緒に外出していただくようお願いをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、職員が十分に見守り出来るよう体制が取れば、ご自身の所持金で買い物もできます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ要望があった場合は、電話やスワン便りにてお知らせしています。また利用者様自身が、ご家族様へ手紙を書いて他の書類と一緒に送らせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して、夜を過ごして頂けるよう、居室の前のソファで職員は待機しています。お手洗いの誘導など、スムーズにおこなっています。	広々とした中廊下の壁には季節に合わせた大きな飾りや絵を掛けている。この中廊下はすべての居室の入口に面している。ソファがあり、夜勤時には職員がここで待機している。体調が悪いなどの変化にもすぐに気がつくので、夜でも安心して過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夜は、居室に近いソファにみなさんで集まって、歌謡ショーなどをテレビでご覧になって、懐かしい曲をみんなで楽しまれたりします。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に、ご本人様が使っていたものをたくさん持って来ていただき、ご自分の部屋であるということを感じていただいています。	居室は本人の好みで壁を飾っている。家族の写真を飾っている方もいる。広い中廊下で実施した運動会で表彰状も全員の部屋に飾ってある。入所時にはこれまで使ってきたものをできるだけ持ってきていただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを日々の生活の中から発見し、見守っていきます。		